

環境モデル都市推進委員会及び円卓会議の取組状況

	取組内容	状 況 ・ 意 見 等	課 題 ・ 対 策
推進委員会	環境モデル都市の将来像	・各円卓会議ごとに将来像を出してもらい、そこに向かって具体的な取り組みを進めていくべきではないか。	
	推進体制の見直し	・環境モデル都市を推進していくためには、庁内の担当課や円卓会議間の情報共有が必要なのは。 ・メンバーを見直し、プロジェクトの推進のために必要な人に参加してもらう仕組みづくりが必要。	・具体的なテーマを設定した部会の設立。市民への参加呼びかけ。 ・メンバーの見直し。全体会議の開催。 ・市職員にも会議に出席してもらう。(関係部課長、担当者)
	市民へのゼロ・ウェイストの周知・啓発	・環境モデル都市フェスタの内容を十分検討し、今後の取組につなげていかなければ。市民をいかに巻き込んでいくかが重要。	・ゼロ・ウェイスト啓発冊子の作成、市民向け通信の検討。
ゼロウェイスト円卓会議	ゼロ・ウェイストの推進	・環境モデル都市フェスタに向けて、作業部会を設立し、ゼロ・ウェイスト宣言文を策定した。4月に市長との懇談会を実施。 ・他のゼロ・ウェイスト自治体とも連携して取組を進めていく。	作業部会を設立し、円卓会議の枠を越えて、取り組んでいくべきではないか。その中で、目に見える形で市民への普及も図っていく。 ・市民への普及・啓発方法 ・他の自治体との情報共有、連携の推進
	資源ごみステーション調査	ゼロ・ウェイストの実現に向けた政策を地域単位で考える基礎資料とする。また、市民への参加を呼びかけることで、ごみ事情に関心を抱いてもらう。 資源ごみステーション(約30箇所)で分別収集作業状況を確認し、聞き取り調査を実施(5/25～6/28)。市民約60名が参加。	・環境学習の観点や、労力の点から、市民調査員を募集する。 ・調査結果をどのように反映、活用させていくか。
	燃やすものの組成調査の実施	・資源物がまだ5割程度混入しているが、その割合がほぼ一定になってきている。資源物を出しやすい仕組みを考えていくべきではないか。 ・燃やすものの総重量の5割以上が紙おむつだった。布おむつの見直しや、紙おむつのリサイクル等も今後考えていくべきではないか。	・クリーンセンターで燃やすものの組成調査を実施。 ・紙おむつの使用の見直し
	給茶スポットの推進	・水俣のごみを減らし、みなまた茶をおいしく飲んでもらうために、市内に給茶スポット(茶飲み場)を広げていく。現在、作業部会の設立にむけて準備中。 ・助成金を利用して、給茶スポットの名称やロゴ、のぼり等のデザインをデザイナーに依頼し、作成。	・経常的な設置に関する仕組みづくり
自転車・公共交通円卓会議	自転車利用の促進	・自転車市民共同利用システムの運用開始に向けての意見交換。2月中旬から運用を開始し、4月末で登録者カードを300枚発行。 ・市民への共同利用システム、自転車利用推進のため、市民講座「自転車スタンプラリーでみなまためぐり♪」を開催。 ・みなまた環境塾で自転車利用に関するアンケート及び通勤効果を報告。自転車利用を推進するために、多様なニーズに対応した様々な取組が必要なのは。	・市民への普及方法や利用方法の検討 ・共同利用システムを利用したパーク&ライドの検討(特にエコパーク) ・自転車の走行マップの作成 ・商店街でのポイント制度や市民への普及啓発方法の検討

自転車・公共交通円卓会議	自転車利用時の安全性 ノーマイカーデーの推進	・車優先道路、歩道が狭い。自転車教室等の実施検討。 ・市民ノーマイカーデーは周知宣伝不足。他の方法はないのか。	・自転車専用道の設置、安全マップ作り ・今年度、市で通行量調査を実施 ・企業における実施、市報やポスター等を利用した周知方法の検討
食と農と暮らし円卓会議	菜の花プロジェクトの推進 地産地消の推進	・寄ろ会が中心となり進めているが、従事者の不足など課題が多いため、学校との連携を進めている(菜種刈り取り・火のまつりへの参加など)。 ・増加している遊休地を利用した菜の花の植栽を実施(2区・18区) ・労力軽減のため、小型コンバインの開発が必要なのではないか。 →八代に視察見学を実施 ・地元の安心・安全な作物、食品の摂取を進めるため「地産地消の日」を制定し、家族そろって水俣産のものを食べる日にしたい。 ・目玉商品(地産アイスクリュー)の開発。県から技術者を招いて試作会及び試食階を実施。	・市民への参加を促す仕組みづくり ・作業効率を上げるための小型コンバインの開発 ・菜種の確保(県の菜種無料配布のとりやめによる) ・廃食油の利用促進(BDF化推進) ・地産地消の実現のための情報の収集・提供の仕組みづくり、生産地(給食畑)の確保 ・地元の特産物を生かした加工品(アイスクリュー)の開発。地産アイスクリューを活用した地産地消の推進
ISOのまちづくり円卓会議	新家庭版ISOの作成 新家庭版ISOの普及方法の検討	・以前取り組まれていた家庭版ISOは、学校版ISO等に比べて普及が進んでいなかった。市民に取り組みやすい新家庭版ISO「みなまたエコダイアリー」を作成。 ・新家庭版ISO「エコダイアリー」が完成(3000部印刷済)。普及に向けて、市報や各種団体への依頼を通して協力を呼びかけていく。 ・まずは市役所職員や、婦人会、学校PTA等の関係団体から取組を始めてはどうか。 ・「エコダイアリー」に取り組むメリット(コンテストの開催・モニター制度等)を検討すべき。 ・今年度は事業所版ISOについて検討していく。まずは、事業所向けのエコ・スマイルプロジェクトを展開し、意識啓発を図ってはどうか。	・普及方法の検討、わかりやすいエコダイアリー紹介チラシの作成 ・学校版ISOとの連携、仕組みづくり ・コンテスト等の実施による記念品贈呈など ・事業所向けエコスマイルプロジェクトの展開、事業所版ISOの作成等
環境学習円卓会議	ごみゼロに向けた環境学習	・学校との連携が必要。発達段階に応じた学習プログラムが必要ではないか(学習指導要領にのっとった形のもの)。 ・環境学習のカリキュラムはないので、環境省のパンフレット等を活用してはどうか。 ・ある程度知識のある人たち(リサイクル推進員)に重点的に学習させることで、地域のリーダーを育てることになる。 ・自分で調べるようなパンフレットが必要では。 ・ゼロ・ウェイスト円卓会議など、他の円卓会議との連携	・学習カリキュラム、ゲストティーチャーの紹介、活用(冊子の作成) ・体系的に環境学習ができる場所(組織)の設立を検討。 ・紙芝居(ごみ女連)の読み聞かせ等での活用 ・学習カリキュラム、ゲストティーチャーの紹介、活用 ・リサイクル推進員に対する研修会の充実、ZW周知用のパンフレット等の整備